

公表 保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	らじえむ			
○保護者評価実施期間	令和6年11月10日		～	令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和6年11月10日		～	令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月10日		～	令和7年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの訪問時の様子を、毎回具体的に書面にし面談を通して様子を共有することで、保護者様と共通したご本人理解につなげていること。	訪問時の様子だけで子どもの理解に繋げるのではなく、保護者さまから家庭での様子も伺うことで、子どもの全体像を把握するようにしている。また、家庭と訪問先での子どもの様子に違いがある場合などは、訪問先ともその違いを共有することで、子ども理解に繋げてもらえるように意識している。	子どもに対しての支援の方向性や理解がバラバラになっているようなら、ケース会議などの提案など、連携をはかっていく。
2	子どもの最善の利益を一番に考えながら、訪問先との連携も大切にしていること。	子どものしんどさや困り感に寄り添い、保護者様の相談に応じながらも、訪問先にとっても相談相手になれるように一方的な助言や提案にならないよう、訪問先の考えや意向も伺いながら、子どもにとっての最善の利益に繋がられるような関係作りを大切にしている。訪問先への電話連絡は放課後の時間にす、訪問日調整は事業所ではなく訪問先の希望を優先する、訪問先の都合も伺いながら訪問時の様子を共有する時間をとってもらう。	引き続き、連携を大切に、訪問先の負担にならないよう配慮しながらも、子どもの困り感やしんどさの理解には繋がってもらえるように、訪問時の様子を具体的に共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が学校や園に対しての思いを共有したり、関係を作れるようなプログラムや機会がない。	そういった機会を持ちたいといった要望やニーズがなかったため。	今後要望やニーズに応じて、保育所等訪問支援のみの保護者会ではなく、放デイと合同の保護者交流会を検討していきたい。
2	事業所の活動状況や体制などの周知ができていない。	保育所等訪問支援事業(訪問・面談など)の関わりのみになっており、情報発信の視点が弱かった。	必要な支援に繋がるように、保育所等訪問支援事業だけでなく法人がしている活動全般について、ニーズに応じてその都度行われているイベント情報(チラシ配布)やインスタやHPの発信など、幅広く情報提供していく。